

日本東亞同文書院編

(第五十四冊)

中國省別全志

綫裝書局

第五十四冊

第八卷 新疆省（二） 昭和十九年 一九四四年 東亞同文會……………一

第八卷

新疆省

(二)

昭和十九年
一九四四年
東亞同文會

第五編 經濟

第一章 工業

第一節 概 說

支那の藝術品や骨董品に對する愛好が、支那及び外國に於いて増大し古美術品の貿易が盛大に赴いたこと、關聯して、曾ては東西交通史、または文明傳播史の上から大きな役割を演じ、殊には東西文明の融合による回鶻文明の溫床を爲した西域新疆では、甘肅省その他の省に於けるが如く、都市を中心としての土着工業とも稱すべき特徴ある手工藝品の發達がありさうに思はれるが、この點新疆省に於いては案外著名なる特殊工藝品に乏しい。

尤も各種の文獻から地方的特色を有すと思はれる産物を拾ひ揚げれば、哈密・吐魯番・阿克蘇・和闐の生絲及び絹織物、疏勒の染織、庫車の絨皮、和闐の琢玉、阿克蘇の金屬器、和闐・庫車の鑄物・小刀、疏勒の製鞍、吐魯番の綿織・釀酒等があり。更に中國通郵物産誌に據れば、その製造品目中に於いて、綿毛織物類では庫爾勒・疏勒・疏附の土布、阿瓦提の粗大布、托克蘇の土大布、依爾克斯塘の毛大連布、莎車の絨毯・毛毯、伊寧の毡子

があり。その他、地方別に見れば伊犁の皮鞋・皮靴・綿襪・機製皮・糖果・肥皂、庫倫の麝香、哈密及
び精河の燒酒、英吉沙の石灰等が擧げられてゐる。

然し新疆省は古來より游牧の地で、羊毛工業の原料たる羊毛の産額が壓倒的に多額であるにも拘はらず、僅かに土法工業があるのみで、その牧畜製品である毛布・絨氈・絨皮、その他生絲及び絹織物等の産出が古くより唱へられてゐるを除いては殆ど語るべきものなく、且これ等の製造品とても、新疆省が今尙ほ游牧民の多い關係上、殆ど原始的な家内工業的手工業のみであつて、未だ大規模工業の見るべきものは極めて稀である。尤もこれ等の手工業製品とても現在既にソ聯に向つて輸出せられて居り、殊にソ聯の新疆進出が著しくなつて以來は、ソ聯との交通の便も開かれて新疆工業の發達に長足の進歩を促がしたことは事實であるが、未だ全く手工業の域を脱せざるは言ふまでもない。而して汪江一の新疆省農村經濟（天山月刊・第一卷第五期、民國二十四年二月號）には農村副業としての紡織・造紙・燭呂・皮革その他の家庭手工業を列擧してゐる。これ等は前述せるものと稍と重複の嫌あるも、凡そ次ぎの如くである。

紡織工業 和闐・洛浦・于闐・皮山等にては織綢、即ち絹織物工業が行はれて機戸一千數百家に達すと稱せられ、特に夏夷綢は綿絲を經絲に、生絲を緯絲に用ゐ、その柔輭なること江蘇・浙江地方にて製織せらるゝ綿綢の如しといふ。その他毛絨氈及び綿布は和闐産が最も優良である。

造紙工業 和闐地方にては桑皮紙を産する、桑樹の柔嫩なる枝を剥きて燻蒸せるものを原料とし、その造紙は質強靱なるを以て稱せらる。また迪化・吐魯番地方にては棉絮或は楮皮・麥稈を原料とする造紙が行はれてゐ

る。

燭昌工業 焉耆地方にては牛・羊脂を以て蠟燭を製造するも、燈蕊が不良で光が暗いと謂はれ、また庫車・莎車・拜城地方よりは牛羊油を原料として石鹼の製造が行はれてゐるが、製品は獸肉のにほひがして不快である。

金屬工業 庫車・拜城地方では精巧な刀が鑄られ、また庫車では銅製品、特に鎧を著名とし、關内に廣く販賣せらる。

皮革工業 阿克蘇・喀什噶爾地方では製帽業が行はれ、また回民は男女共に皮製の冠履を用うるが故に皮業盛んにして、和闐の皮箱はまた著名である。

右の如くにして新疆省の工業に就いては餘り記すべきものもないが、民國十六―十七年頃よりは漸く近代的企業の曙光が現はれて民國十六年には吳兆熊經營の迪化電燈公司が發電を開始し、翌十七年には省政府經營の迪化阜民紡織公司が資本金一〇〇萬兩を以て操業を開始し、綿布の年産額約一、三〇〇疋と稱され、その他石油精製のため省立工藝廠及び迪化商辦石油公司が設けられ、更に迪化機器局（小銃彈・小銃修理）・迪化製革廠（省政府經營）・吐魯番精毛工場（大小毛布類製造）・伊犁製革廠・伊犁木材公司の外、喀什噶爾に於けるソ聯通商代表部の經營する棉花並びに羊毛洗滌工場が設立せられて居り、最近に至つては邊防督辦公署の統轄下に新疆兵工廠・迪化軍鞋工廠・迪化磨麵場及び吐魯番紡織工廠等が開設せられて、それ／＼軍需品の製造に従事してゐるが、何分その地僻遠に在り、且これ等の重要工業はソ聯の指導下に在りてその内容を知るを得ない。

更に近年支那政府は西北開發に力を注ぎ特に新疆省を重要視し、民國二十二年第二次新疆政變に際し羅文幹の

新疆派遣以後には南京政府部内に新疆建設計畫委員會が成立して新疆建設計畫を研究し、殊に支那事變勃發後には新疆省が原料資源の豊富なるに鑑み、重慶政府は益々これが開發の必要を痛感すると共に合作工業の方法を採用し始めたことは新蘇緊密化の強化と相關聯して頗る注目に値ひするものがある。この工業合作運動は支那に於いても既に二十年餘の歴史を持つてゐるが、工業合作社の最も早く組織されたのは西北地區であつて、民國二十七年陝西省寶慶に西北區辦事處が設立せられて陝西・甘肅・山西・河南・湖北五省の工合運動の推進に當り、また西南區辦事處は湖南省邵陽に設けられて湖南・廣西・貴州諸省の工合運動を推進することゝなつたが、新疆省は重慶政府からは全く離脱して居り且ソ聯との關係もありて、その工合運動は著しく遅れてゐる。然しこの工業合作社は難民の救済・土着工業の維持を目的とするもので、戦争が行はれて或る地方の工業が停止せる場合、失業技術者と避難民とを他地に移住せしめ、または自發的に移住し來れる者乃至は傷痍軍人を以て工業合作社社員と爲し、最少七人以上を以て組織し、中國工業合作協會に於いてこれが指導に當り、生産を行ふ組織である。

斯くて重慶政府は戦争に因りて生じたる難民・失業技術者及び傷痍軍人を奥地に送りてその開發に従事せしめてゐるが、將來一般産業の發達に少からざる影響を與へるものと豫想せられてゐる。最近（民國三十二年）傳へらるゝ所に據るに、重慶政府事務局は河南省の難民三萬人を新疆省に移住せしめたとのことである。その眞偽は固より明らかではないが、難民・失業技術者及び傷痍軍人は從來とも奥地開發のため墾地及び灌漑開設と共に工業方面に於いても使用せられて來たのであるが故に、新疆省に於いても亦これ等の集團移民を利用して工業合作計畫の進行することは察するに慥くない。更にまた重慶政府は工業合作第二業務年度に於いて一〇〇、六二四人を

新疆省を含む西北地區に送る計畫を樹て、既に五四、三四二人（前掲三萬人を含まず）の移住を完了せりと傳へられてゐる。

この奥地の開發に關しては、支那人中にはこれを相當高く評價するものもあつて、支那は今次の戦争のためからざる生命財産を失つたが、然し歴代の爲政者が試みて實現の不可能であつた奥地の開發と建設とが可能なるに至つたと稱してゐるが、これは未だ必ずしも新疆省には當て嵌まつてはゐない。

附記 政府當局の發表せる新建設工業

金久保通雄氏はその著「支那の奥地」に於いて、新疆省政府當局の發表せる數字に據り、同省に於ける新建設状況を記述せられてゐるが（同書四八―五〇頁）、これに據ると、新疆省最近の經濟建設は相當の進捗を見てゐる模様である。即ち

重工業方面では、金・石油・石炭等各種鑛業の開發と共に、第二次三箇年計畫に於いてセメント工業のため二〇萬元の投資を行ひ、ソ聯の技術的指導下に二工場が設立せられて年産二萬噸を製出し、更に輕工業中の主要なるものには、製粉業・毛織物業・針織物業・絹織物業・製革業・煙草業・造紙業及び化業工業等が開設せられて、何れも小規模な資本金數十萬元のものではあるが、或程度の進展を見て居り、また新疆省には最近まで電燈は無かつたが、現在では一二箇所の電燈廠が建設せられて主要都市に電燈が灯され、印刷所も六箇所ありて、迪化の政府印刷所では紙幣及び色版の印刷が行はれてゐる。更に綿毛絹紡織廠は全省に七箇所、化學工場・石鹼工場・製粉工場・煙草工場・製革工場・罐詰工場等は總べて官營事業として伊犁・迪化・塔城に設立され、無電燈も最近

二―三箇所に設けられ、迪化ではアメリカの放送を聴取することが可能なるソ聯製の優秀装置が設置されたとのことである。

以上は即ち新疆政府當局の發表せる數字であつて、實際には相當割引して見ねばならぬことは、著書自身でも特に注意を與へて居り、假りに一應の開発が手に着いたとしても、何れも極めて小規模なものゝみで、最近數年前までは近代的なる意味を有する工業は殆ど存在せず、僅かに寥々たる手工業の存在せるのみであつた。従つて新疆省の工業建設は、重輕工業共に漸く建設の初步を踏み出せるに過ぎず、新疆の基礎産業は依然として農牧業に在ることは言ふまでもない。

第二節 纖維工業

第一款 綿絲紡績及織布

新疆省は山脈及び沙漠を以て大部の面積を占め、耕作地は全省面積の一割内外に過ぎないが、地味は比較的肥沃であり、殊に南疆地方は氣候最も農作に適し、工業用植物としては棉花及び亞麻をも産すと謂はれてゐる。殊に棉花は和闐・葉爾羌・葉城・喀什噶爾・吐魯番地方に産し、從來その年産額二、〇〇〇萬乃至三、〇〇〇萬斤に達すと稱され、その約三分の一は土法手工業に使用し、その他はソ聯・印度及び支那内地に供給せられ、特に吐魯番地方は著名なる棉產地として聞えてゐる。但し紡績工業の未だ發達せざること既述の如くであつて、その原因

は從來、機械の輸入困難なるに加へてソ聯・印度及び支那本土より安價なる製品が輸入せられたがためである。然し家内工業としては土民婦女も特殊な原始的機械を使用して紡織を行ひ、吐魯番・疏勒・疏附・莎車・和闐・庫車等の土布は、その年産額六六萬疋以上に達すと謂はれてゐる。更に近代式機械紡織に至つては迪化に阜民紡織公司が省政府經營の下に、民國十七年以來操業を開始し、最近には吐魯番紡織工廠の設立を見しこと既述の如くである。

なほネグーチンの現代新疆に據れば、楊增新が省主席の當時（民國十六年）、織物工業の有望なることに着目し、烏魯木齊（迪化）産業會議所に附屬せしめた個人所有の紡績並びに羅紗工場を設立し、相當規模のものであつた、普通の支那式機械を据付けて喀什噶爾及び和闐製類似の綿布、並びにクリジャ製に似た部厚の羅紗を製織したが、當時楊增新は織機の購入をソ聯に交渉し、民國十九年金樹仁主席の時に至つて漸く到着したと謂はれてゐる。蓋し前記の迪化阜民紡織公司を指すものと思はれる。

第二款 製絲及絹織物

和闐・阿克蘇等を中心とする南疆一帯には養蠶行はれ、また絹織物をも産する。而して滿鐵調査會現代新疆所載に據るに、生絲は疏附の年産額二〇萬斤、その他皮山・和闐・阿克蘇・鄯善・洛浦・輪臺・葉城・庫車・焉耆・莎車等合計六四八、七一九斤を産し、主としてソ聯及び印度に輸出せられてゐる。従つて絹織物をも家内工業的に製織せられてはゐるが、染料缺乏のため白地のものが多い、但し質は堅牢である。

なほ喀什噶爾一帶では錦を産し霞夷と稱する。また綢は和闐・洛浦・皮山諸縣にて製織され、機戸一、二〇〇餘戸ありて製品は夏夷綢と呼ばれ、柔きこと江浙産に類するも、光澤は及ばないと謂はれてゐる。

第三款 毛織物

新疆省は古來よりの游牧地であり、現在に於いても哈薩克人及び蒙古人等は純然たる游牧種族として、多くは天山以北に在りて牧畜を營み、天山以南の住民も亦半牧半農のものが多し。従つて各種の畜産品を産すること多く新疆輸出の重要品を爲してゐるが、特に羊牧最も盛んなるが故に羊毛皮を大宗とし、羊毛の年産額一〇萬擔に達する。

従つて從來各地に於いては絨氈類の製織行はれ、殊に和闐・葉爾羌及び喀什噶爾等にては絶好の氣候に恵まれて細毛種の牧羊が行はれ、絨氈の製織に適するのであつて、その製品には花・唐草模様のもので多く、その色彩種々あるも、主として回教式の模様である。蓋し純回教藝術品としての絨氈の製織は古代より始まり、回教國に於いて絨氈は宗教上の儀式用及び室内裝飾用として使用し來たつたもので、回教徒の家具中唯一の贅澤品である。また和闐・伊犁・疏附・喀什噶爾等よりは毛布を製出し、年産額六七、五〇〇枚を數へてゐる。

更に羅紗は、民國十年頃、露西亞工場に働ける一支那人が羅紗工場を設け、手織機械を以て羅紗の製織に着手せりと傳へられしも、未だ機械工業と稱すべきもの殆どなく、従つて製品は極めて粗陋である。但し最近に至つては機械による毛織物業がソ聯技師指導の下に建設せられ、棉毛絹紡織廠は全省七箇所に及ぶが如きも、多きも

資本金數十萬元に過ぎざる小規模のものにして、その内容の詳細に互つては審かでない。

なほ現代新疆に據るに、キルギス婦人は家事及び家畜の世話を爲すと共に、その合間には紡織も行ひ、彼女達は着物や防寒用打掛けを縫ふばかりでなく、特殊な機械を以て極めて原始的方法に依り羊毛・馬毛を材料として種々の色を織り混ぜた厚地の大きな「ケチメン」と稱するものを織り、外套及び上着に用うる旨を述べてゐる。

また新疆省に於いては紡績織物業は諸種の原因に妨げられて、未だ然るべき發達を遂げざること既述の如くであるが、絨氈の製織に就いては大いに見るべきものありて、これが製織には、先づ厚地のズックを造りて地とするもので、質を堅牢ならしむるため普通麻を使用する、その上で手縫ひの刺繍を施すものであるが、現代新疆に據るに人間並びに動物の像をかたどることはコーランにより禁止せられてゐる。

一般に和闐及び喀什噶爾製の絨氈はけげ／＼しきものが多い、その色は概ね赤・緑・青であるが、縁は種々の色を以て飾られ、色の配合もよく均整し、全體として稍々燦んだ色に見える。尤も喀什噶爾製の絨氈は和闐製に比して原料羊毛が劣り色彩も單調で藝術味を缺き模様も粗野であるが、支那人間には却つて賞美せられて支那本土に大量の移出を爲してゐる。現時省内絨氈製造の最大障碍は染料不足であつて、外國製染料は市場より影を沒し、支那製染料は粗惡にして剝げ易いといふ。

更に新疆省にては土語でコシユマと稱するフェルトが製造されてゐる、主として南部地方にて行はれ、専ら省内に於いて游牧民の小屋の蔽ひ、または床の敷物・夜具等に用ゐられる。游牧者の最必需品であるばかりでなく、

支那人及び回教徒の被る帽子にも製作され、防寒用靴の製造或は貨物の包装用にも供せられる。

斯くてコシユマに對する需要極めて大にして、その製法は水または酸に浸せる羊毛を熨すか、或は撚りて造り、普通は白色であるが、漸次赤が用ゐられてゐる。而して喀什噶爾地方のものは細羊毛を用うるが故に製品は非常に軟かく品質佳良である。

第三節 化學工業

製紙業 支那に在りては古くより製紙行はれ、新疆省に於いても亦和闐の桑皮紙が知られてゐる。但し土法製紙であつて桑皮を原料とする。光澤に乏しきも質堅韌にして、全省官廳の公文用紙は皆これを使用すと謂ふ。最近ソ聯技師指導の下に製紙工場の設立を傳へられ、更に迪化に於いては政府經營の印刷所ありて紙幣及び色版の印刷が行はるゝに至つたと報ぜられてゐるが、その詳細は不明である。

皮革業 新疆省には羊皮約一五〇萬枚、牛皮約五〇萬枚、馬皮約三〇萬枚、その他各種の獸皮を産し、總計約五〇〇萬枚にも達すべしと稱せられ、ソ聯への重要輸出品であるが、これ等皮革原料の約一半は全然精製されることなしに輸出され、他の半分は土法により製革せられて軍需その他の所用として省内に止まる。

斯くて製革業は新疆省に於ける工業中、最重要部門を占むるもので、民國十二年の省政府調査に據れば、舊伊犁道の特克斯及び吉噶斯兩河の流域地方のみにても水力並びに手工業による製革廠は大小四六所に達してゐるが、これ等は皆、土法によりて製革を行つてゐる。即ち牛乳を混じたる水にて洗ひ、或は麥粉または糠を振りか

けて精製し、外套・靴等を製造するのであつて、カルト人の部落、即ち土語のキシユリヤークには必ず斯かる小規模の製革工場がある。また最近漸次新式工場も現はれて古來の生産様式を改め、ソ聯の製法に倣つて樹皮により革を繰すの方法が行はれ、迪化に於ける製革工場は産業組合がソ聯人を監督技師として建設したもので、烏魯木齊河の水力を利用し、製品の品質・染色・労働者數及び生産量からいふも確に省内隨一のものである。但しその生産は軍隊の需要を満たし得るのみで、市場に製品を供給する餘裕がないことである。

第四節 油脂工業

東罕族は大豆及び向日葵の種子から植物性油を採取する。綏來にての年産一五、〇〇〇斤と稱され、庫爾勒及び拜城地方にも少量生産する。この外、伊犁にては石鹼の製造が行はれ年産約五萬塊である。また羊油・牛油等を原料として洋燭を造る、迪化・庫車等にその工場ありて回民が斯業に従事してゐる。

第五節 製粉其他の食料及嗜好品工業

第一款 製粉業

天山以南の土民は皆小麦を食糧とし、米はその次に位する。各地には水車等による土法製粉が行はれてゐるが、機械製粉工場は迪化にあつて回民馬正元が約二〇年前に創立し、機械は露國から購入した、當時年産一〇〇

萬元と稱せられ、後省政府の經營に移つた。最近ソ聯技師の指導下に製粉工場の建設を傳へらるゝも詳細不明である。

第二款 嗜好品及食料品

嗜好品中伊犁にては磚茶の年産額約二萬塊に上り。また煙草は伊犁・和闐・葉爾羌・喀什噶爾・迪化・綏來地方に産し、最近ソ聯技師指導下に於ける工場の設立を傳へらる。

また醬油及び酢は調味料として省民の日常必需品であるが故に、これが醸造は各地に行はれ、醸造人は概ね東干族である。

酒は葡萄・沙棗・糜子・桑椹・稻麥を原料とし、葡萄は南八城より産する白葡萄を原料とせるものが著名である。

その他、新疆省は各地に亘りて甜菜の栽培行はれ、また伊犁地方には甘草を産し徑二寸に及ぶものがある。嘗て陝西亞の工科學生が製糖計畫を爲せしも失敗に歸せりと謂ふ。また疏附よりは砂糖を産し、年額一四萬斤と稱せらる。

第六節 其他雜工業

新疆省は石油の埋藏豊富なるを以て知られ、その資源地はフォルガン石油地帯であつて、天山より阿克蘇を経